

令和6年度 政策評価表

		作成日	令和6年8月27日
リーディングプロジェクト	所沢ブランドの推進とまちの活性化	ゼネラルマネージャー	産業経済部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、所沢駅西口まちづくり担当理事、教育総務部長		
幹事会メンバー	産業経済部次長、企画総務課長、経営企画課長、広報課長、地域づくり推進課長、文化芸術振興課長、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、所沢駅西口区画整理事務所長、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

本市には、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、焼だんごや手打ちうどんといった食文化、「音楽のあるまちづくり」に代表されるモダンな市民文化など、市民が誇りに思う「所沢ブランド」が数多くあります。そして、まちの活性化を図るためには、こうした他市にも誇れる本市の魅力をも十分に活かしていくことが必要です。

本市では、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせ、東所沢に新たな文化の拠点となる「ところざわサクラタウン」が開設するとともに、西武ドーム球場周辺のボールパーク化が計画されるなど、今後、国内外から多くの観光客が本市を訪れることが見込まれています。

国内はもとより、海外にまで本市の魅力伝えることができるこうした機会を捉え、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境整備といった基盤整備をはじめ、地元商店や地域における観光客受け入れに備えた取り組みなどを推進し、観光を軸とした魅力とにぎわいの創出のため、豊かなみどりと文化の魅力伝える「所沢ブランド」を発信します。

【令和5年度に実施した事業】

「主な取り組み」にあたる事業

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）	
「所沢市観光情報・物産館」活用事業（COOL JAPAN FOREST 構想）	商業観光課
にぎわいトコロ創出支援事業	商業観光課
「まち」×「みどり」のおさんぽコース道標等整備事業	商業観光課
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進（地域製品のブランド化の推進）	
所沢ブランド特産品推進事業	産業振興課
ブランド価値の向上事業	商業観光課
所沢農産物ブランド化推進事業	農業振興課
5-3-4 観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）	
インバウンド戦略推進事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）	商業観光課
効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業	商業観光課

5-6-1 個性あふれる文化の創造(市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの運営)	
三ヶ島アートなベンチ設置事業	文化芸術振興課
音楽のあるまちづくり推進事業	文化芸術振興課
市民文化センター管理運営事業	文化芸術振興課
5-6-2 文化財の保護・活用(滝の城跡等の文化財の活用)	
歴史的建造物整備活用事業	文化財保護課
滝の城跡整備事業	文化財保護課
文化財公開活用事業	文化財保護課

「関連する取り組み」にあたる事業

4-2-3 みどりと水の保全(「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出)	
里山保全地域等指定整備事業	みどり自然課
水田景観保全事業	みどり自然課
6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進(所沢駅西口再開発・区画整理事業)	
所沢駅西口地区まちづくり事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅西口土地区画整理事業	所沢駅西口区画整理事務所
所沢駅ふれあい通り線道路築造事業(1工区)	所沢駅西口区画整理事務所
7-4-3 地域の総合力の向上(地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進)	
COOL JAPAN FOREST 構想推進事業	経営企画課
ダイアプラン推進事業	経営企画課

【評価及び今後の方針】

令和5年度の取り組みに対する評価

にぎわい拠点の創出・活性化(新規・既存の観光拠点整備・充実)

- 令和3年5月に「所沢市観光情報・物産館 YOT-TOKO」を開業し、本市の観光情報の提供や特産品のPR・販売等による魅力発信拠点として、指定管理者による運営を開始している。令和5年度にはYOT-TOKO 文化祭の他、様々なイベントを開催し、本市の魅力発信及びにぎわい拠点の創出に取り組んだ。(令和5年度の来館者数(推計)は約17万3千人)
- にぎわいトコロ創出支援事業では、市内8団体に対して補助金を交付し、にぎわい拠点の創出、活性化に向けた事業の取り組みを支援した。
- まちなぎわいと美しく豊かなみどりを巡る「まち」×「みどり」のおさんぽコース10選のうち「東川さくらおさんぽコース」の道標及び観光案内板を新たに設置し、市内を歩きやすく、また、歩きたくなるよう整備した。
- 令和5年10月28日、29日に開催した「第44回所沢市民フェスティバル」は、2日間とも好天に恵まれ約27万人の来場者数となった。前回の387団体を上回る419団体の出展があり、市内企業や飲食店、行政団体のほか、庁内からも多くの所属が参加し、所沢ブランドの推進の場としても活用された。また、開催運営に伴い、当日ボランティアとして市内高校生・大学生の協力を得たことにより、多世代の市民・市内事業者・行政がともに関わるコミュニティ醸成の場となっている。

観光を軸としたブランド化の推進(地域産品のブランド化の推進)

- 所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第6回認定審査会を実施し、2商品

を新たに選定した。販路支援においては、所沢ブランド特産品の特設 WEB サイトにて認定商品（43 商品）及び開発者の紹介を行うとともに、広報ところざわや SNS（Instagram）を活用した商品紹介を行い、認知度向上に努めた。また、所沢市民フェスティバルに「所沢ブランド特産品」のブースを出展するなど、イベント参加による販路支援を行った。

- ・ 広報ところざわの連載記事やコミュニティビジョンを活用し、所沢ブランド特産品を紹介した。ダイアプラン 4 市でも放映され、市内だけでなく近隣市でも PR することができた。
- ・ 本市を本拠地とするプロスポーツチームである「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」との連携を推進し、本市のブランド価値を高め観光資源として活用するとともに、ふるさと所沢への愛着の醸成を図っている。令和 5 年度には、埼玉西武ライオンズとはフレンドリーシティ感謝デーへの出展をはじめ、小学生を対象としたベースボールチャレンジなど様々な事業を協働で実施している。また、さいたまブロンコスとは、ホームゲーム開催時に、小中学生を対象とした無料招待やブロンコスマルシェ（キッチンカー出店、観光ガイド配布、地元野菜販売）などを実施した。
- ・ 7 月に世界遺産に認定された武蔵野落ち葉堆肥農法が注目される中で、農産物の地産地消として、「とことこ市」を所沢市民体育館開館 20 周年の記念イベントで出店したほか、早稲田大学所沢キャンパスで行われた「ところざわアスレチックフェスティバル」にも出店し、地元農産物の魅力を発信した。
- ・ 連携自治体 5 市（所沢市、入間市、狭山市、鈴鹿市、生駒市）とともに参加が決定した 2025 年日本国際博覧会の準備とともに、狭山茶のブランド化推進では、「ところざわ新茶まつり」にて茶摘みが体験できるツアーを新たに企画したほか、ところざわサクラタウンでの「喫茶来」や都内開催のマルシェへのイベント出店や、ベルーナドームでの「ライオンズフェスティバルズ 2023」にて煎茶パックの配布を行い、市内外に向けて PR を行った。

観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）

- ・ インバウンド戦略推進事業では、旅マエのプロモーションとして、台湾で開催された「台北国際旅行博」への出展や、インターネットを活用した情報発信を行い、外国人観光客を誘致するとともに、旅ナカのサービスとして、外国語観光ガイド養成講座、多言語版観光パンフレット配布や外国人観光客向けアンケート調査を実施し、訪日外国人の受入体制整備を行った。
- ・ 「所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）」において、本市の魅力的な観光資源を発信するとともに、多言語に対応した観光パンフレットを提供する等、外国人観光客向けに充実した対応を図った。
- ・ 広報ところざわ 1 月号において「まるごと おいしい ところざわ」をテーマとして、ぶどうやいちごの収穫体験などを行うことができる市内の観光農園の PR を行った。

個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの運営）

- ・ 緑豊かな大地、歴史的な風土等を備えた三ヶ島地区において、武蔵野美術大学、県立芸術総合高校の協力を得ながら 4 台のアートベンチを制作及び設置し、文化芸術による愛着や誇りの醸成につなげることができた。
- ・ まちなかコンサート等を開催したほか、前年度に引き続きグランエミオ所沢にストリートピアノを設置し、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方に演奏や鑑賞を楽しんでいただき、「音楽のあるまちづくり」を推進した。
- ・ 市民文化センターミュージズは、開館 30 周年を迎え、コロナによる制限のない運営により、多くの来場者があり、芸術文化の振興を図った。

文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）

- ・ 歴史的建造物保存活用事業では、「所沢市寿町歴史的建造物整備活用基本方針」に基づき、国登録有形文化財「秋田家住宅」及び敷地全体の整備活用を進めるにあたって必要な各種調査を行った。
- ・ 滝の城跡整備事業では、「滝の城跡整備検討委員会」を組織し、これまで行った発掘調査の成果及び文献史料による研究の双方から「滝の城跡」の歴史的な位置づけについて再検討を開始した。
- ・ 文化財公開活用事業では、国重要文化財「小野家住宅」や国登録有形文化財「秋田家住宅」などを公開し市民が文化財に親しむ機会を設けるとともに、広報紙の発行を通じて文化財調査成果の情報発信を行った。

みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出）

- ・ 都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、所沢市みどりの基本計画に基づき、三ヶ島二丁目里山保全地域を 0.47ha 追加指定し、10.3ha へと拡大した。
- ・ 上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域内に残されている貴重な水田景観を保全するため、水田 6 筆について地権者と貸借契約を結び、地元団体との協働により耕作及び管理を実施した。

所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）

- ・ 所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めるとともに、民間開発による広域集客型商業施設に引き続き所沢らしさを求めた。
- ・ 所沢駅周辺の回遊性の向上を目的とした歩行者デッキ工事（B デッキ・C デッキ）を発注し、工事に着手した。
- ・ 「所沢駅ふれあい通り線」における鉄道敷地内の工事について、西武鉄道と協定を取り交し工事に着手した。

地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進）

- ・ COOL JAPAN FOREST 構想は現在「成果創出期」にあり、本構想は次の取り組み等により概ね順調に推移している。

令和 5 年 11 月 18 日、19 日にところざわサクラタウンで開催された「武蔵野回廊文化祭」において、市のブースを設けたほか、各種イベントへのところん参加により、構想及び市の PR を行った。

令和 5 年 4 月に N 高等学校、S 高等学校のスクーリング施設がところざわサクラタウン内に開校した。

開智所沢小学校・中等教育学校の開校準備を進めた。（令和 6 年 4 月に開校）

令和 5 年 12 月 29 日、30 日にところざわサクラタウンで開催された e スポーツ大会「FAV CUP2023」で市の PR 動画放映を行ったほか、プロ e スポーツチーム「FAV gaming」の世界大会凱旋報告会を（株）KADOKAWA と共催にて実施した。

（株）KADOKAWA が市内イベント実行委員会等へ参画したほか、市の後援名義を使用するなど、庁内各部署との様々な連携を行った。

- ・ 埼玉県西部地域まちづくり協議会設立 35 周年を記念して、謎解き周遊イベント事業、サイクリングマップ作成事業、記念式典事業を実施し、ダイアプランの魅力を発信した。

- ・ 第 34 回所沢シティマラソン大会を開催したところ、全国から 4,706 名のエントリーがあった。参加者には本市の自然豊かな魅力を PR するとともに、大会の様子を YouTube で全国にライブ配信する取り組みを行い、所沢ブランドの発信に寄与した。

【総評】

関係団体との連携を図り、様々なイベントの開催や参加をすることにより、にぎわいを創出し本市の魅力を伝えることができた。あわせて、観光客誘致の強化を図るため、国内だけでなく海外に向けても積極的な PR を行ったことや、各取り組みにおいて、インターネットや SNS などを活用し、「所沢ブランド」を広く発信することで、一定の効果があったと考えられる。

また、文化芸術や歴史的文化財を活用した取り組みにより、「所沢ブランド」の価値を高め、本市の魅力を一層高めることができた。

以上のことから、「所沢ブランドの推進とまちの活性化」の実現に向けて、昨年度に引き続き、様々な取り組みが着実に進められたと考える。

今後の方針

にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点整備・充実）

- ・ 所沢市観光情報・物産館（YOT-TOKO）と連携した、にぎわい拠点の充実を図る。
- ・ 今後も時機を捉えて、広報ところざわ、市ホームページ、SNSなどで市の魅力発信に努めていく。
- ・ イベントの開催にあたっては、引き続き安全に開催するとともに、市民有志の実行委員会等との協働により、来場者が「所沢の今」を体感・体験できる場となるように検討していく。

観光を軸としたブランド化の推進（地域産品のブランド化の推進）

- ・ 所沢ブランド特産品については、認定商品も充実してきたことから、今後は販路支援に重点を置き、認知度向上のため積極的な情報発信を行っていく。
- ・ 本市を本拠地とするプロスポーツチームと連携し、観光資源として活用するとともに、市民がふるさと所沢への愛着や誇りを醸成する取り組みを進めていく。

観光客誘致の強化（地域におけるインバウンド受け入れ体制の構築）

- ・ 外国人観光客誘致のため、海外に向けた情報発信を進めるとともに、本市を訪れる外国人観光客の市内回遊性の向上や観光スポットの多言語化など受入体制の整備を進める。

個性あふれる文化の創造（市民主体の多彩な文化・芸術活動の促進・市民文化センターの運営）

- ・ 「音楽のあるまちづくり」を推進し、市民が多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化の薫り高い施策を進めていく。
- ・ 市民文化センターミュージズについては、市の文化発信拠点として、適切に管理運営していく。

文化財の保護・活用（滝の城跡等の文化財の活用）

- ・ 先人たちの営みとともに長い年月受け継がれてきた歴史的財産である文化財や市域に伝わる民俗芸能の保存に努めるとともに、歴史的建造物など文化財を活用することにより、その魅力を発信す

ることで歴史文化や郷土を大切に作る心を育み、本市の歴史文化を未来へ継承していく。

みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築・狭山湖周辺の魅力創出）

- ・ みどりと水の保全に関しては、引き続き、里山保全地域などの地域制緑地の指定による樹林地の保全、公共施設の緑化や都市公園、都市緑地などの施設緑地の整備によるまちなかのみどりの創出を進めていく。

所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進（所沢駅西口再開発・区画整理事業）

- ・ 所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進める。また、1号公園の整備を進める。
- ・ 所沢駅周辺の回遊性の向上を目指し、歩行者デッキを令和6年9月に開通できるよう整備していく。
- ・ 所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした、「所沢駅ふれあい通り線」の工事を進め早期開通を目指し整備を進める。

地域の総合力の向上（地域の魅力を都市ブランドとして発信・COOL JAPAN FOREST 構想の推進）

- ・ COOL JAPAN FOREST構想において、「未来への飛翔期」に向けて分野横断的な連携を検討することで、「みどり・文化・産業が調和したまち」の実現を図る。
- ・ ダイアプランにおいて、ゼロカーボンを推進する事業や観光誘客キャンペーンに積極的に取り組み、本圏域のブランド力の向上を図る。
- ・ 日本代表として世界を舞台に活躍しているアスリートを所沢市ゆかりのアスリートに認定し、出場大会での成績をSNSなどを活用して積極的に情報発信することで、所沢市を世界にPRする。さらに、狭山丘陵に位置するベルーナドームを会場とした所沢シティマラソン大会に加え、早稲田大学所沢キャンパスを会場とした陸上競技大会や水泳大会を開催することで、本市の自然豊かな魅力をPRする。
- ・ 令和6年度から、ふるさと応援寄附に対する返礼品を再開し、本市のPRにもつながる返礼品を提供することで産業振興を向上させ、市の魅力となる所沢ブランドを市外へ発信する。

【SDGsへの貢献】

- | | | | |
|---|--------------------|----|-------------------|
| 1 | 貧困をなくそう | 10 | 人や国の不平等をなくそう |
| 2 | 飢餓をゼロに | 11 | 住み続けられるまちづくりを |
| 3 | すべての人に健康と福祉を | 12 | つくる責任 つかう責任 |
| 4 | 質の高い教育をみんなに | 13 | 気候変動に具体的な対策を |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう | 14 | 海の豊かさを守ろう |
| 6 | 安全な水とトイレを世界中に | 15 | 陸の豊かさも守ろう |
| 7 | エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 | 平和と公正をすべての人に |
| 8 | 働きがいも経済成長も | 17 | パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 | 産業と技術革新の基盤を作ろう | | |